

令和2年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
成果報告書

団 体 名	公益財団法人静岡県文化財団	
施 設 名	静岡県コンベンションアーツセンター グランシップ	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業・人材養成事業・普及啓発事業	
内 定 額 (総 額)	29,094	(千円)
	公 演 事 業	21,141 (千円)
	人 材 養 成 事 業	290 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	7,663 (千円)

(1) 令和2年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	グランシップ世界のこども劇場 2020	5月5日※	新型コロナウイルス感染拡大により、劇団が来日できず公演中止。	目標値	700
		中ホール・大地		実績値	—※
2	静岡県文化プログラム「ふじのくに伝統芸能フェスティバル」	5月31日※	新型コロナウイルス感染拡大防止のため、予定事業は次年度延期。代替特別公演も直前中止。関係者のみで、県内出演予定団体の和太鼓演奏実施。	目標値	1,000
		富士宮市民文化会館 大ホール		実績値	36※
3	グランシップ音楽の広場 2020	8月2日※	新型コロナウイルス感染拡大により予定事業は次年度へ延期。これまでの公演振り返りも兼ねた動画配信等WEB企画を実施。	目標値	5,600
		大ホール・海		実績値	11,253※
4	グランシップビッグバンド・ジャズ・フェスティバル 2020	8月9日※	新型コロナウイルス感染拡大によりゲストボーカルの出演中止、出演団体、公演時間、定員を縮小。チケット販売を中止・返金し、事前購入者のみ無料で鑑賞。	目標値	1,500
		大ホール・海		実績値	487※
5	NHK 交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズⅢ	8月22日※	新型コロナウイルス感染拡大により、予定した公演は次年度へ延期。(野平一郎氏委嘱作品は完成し、楽譜浄書済み)	目標値	900
		中ホール・大地		実績値	—※
6	上野耕平×三浦一馬×山中惇史トリオ	2月23日※	出演：上野耕平、三浦一馬、山中惇史 曲目：G線上のアリア、鮫、ボレロ他 定員を収容人数の半分に変更。	目標値	750
		長泉町文化センター ベルフォーレ		実績値	395※
7	にっぽんこども劇場 2020	3月27日※	浪曲：12/19 玉川奈々福、沢村まみ 寄席：2/28 林家正蔵、三増紋之介 他 能楽：3/27 武田祥照 他 演目 殺生石	目標値	300
		御殿場市民会館 小ホール		実績値	295※
8	[グランシップ 伝統芸能シリーズ] グランシップ 出前公演 「グランシップ静岡能」	1月24日※	県の指導により、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言発令の当該地域からの出演者の来県が出来なくなり中止。	目標値	600
		菊川文化会館アエル 大ホール		実績値	—※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(2) 令和2年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	
1	静岡県公立ホール連携支援 研修事業	9月～2月※	講師：花田和加子(ヴァイオリニスト)他 [トライアル公演] 出演：ALBOSトリオ、近藤康平	目標値	100
		グランシップ会議室他		実績値	293※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧【普及啓発事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	[グランシップ 伝統芸能シリーズ] グランシップ 出前公演 「静岡能 能楽入門公演」	9月26日※	出演：山階彌右衛門、観世芳伸 他 演目：仕舞「竹生島」、能「田村」他 定員を収容人数の半分に変更	目標値	700
		菊川文化会館アエル 大ホール		実績値	365※
2	グランシップ 出前公演 クラシック普及事業	11月28日、2月20日※	出演：平野啓一郎、福田進一 他 曲目：シチリアーナ、大聖堂 他 出演：仲道郁代 曲目：幻想即興曲他 収容人数を縮小	目標値	860
		袋井市月見の里学遊館 沼津市民文化センター		実績値	503※
3	中学生のためのオーケストラ	1月24日※	出演：アピケイル・ヤング（コンサートマスター弾振り）、オーケストラアンサンブル金沢、横坂源 中学生対象公演は中止、一般向けはプログラム、出演者等に変更	目標値	2,900
		三島市民文化会館 大ホール		実績値	174※
4	0歳から聴こう！ ふれあいコンサート	11月14日※	出演：ALBOSトリオ、栗ポーンカルテット 曲目：くまんばちの飛行、宝島、他 定員を収容人数の半分に変更	目標値	400
		掛川市美感ホール		実績値	146※
5	グランシップ子どもアート体験！学校プログラム	6月～12月※	内容：宝井馬琴監修講談教室 他 講師：宝井琴星、宝井琴鶴 他 実施予定校の辞退により一部中止	目標値	1,170
		県内小中学校他		実績値	744※
6	グランシップ伝統芸能普及プログラム	7月～11月※	内容：狂言ワークショップ 他 講師：三宅右矩 他 実施予定校の辞退等により一部中止	目標値	400
		県内小学校他		実績値	155※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価				
社会的役割（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。				
【ミッション】「ふじのくに文化振興基本計画（静岡県策定）」に則り、県を代表する多目的県立施設である「グランシップ」を拠点に人、もの、文化、情報が交わり、人々が集い憩う県民の「心のオアシス」になる。				
【事業の組み立て】子どもを中心に地域、世代、障がいの有無に関わりなく幅広く県民が文化芸術に触れる場づくりを進めるため、4つの戦略目標（音楽文化などの普及・振興、伝統芸能の継承、文芸・美術などの振興、子ども子育て世代の支援）に沿った公演事業、普及啓発事業、人材養成事業を実施。				
【令和2年度特殊要因】令和2年9月～令和3年2月工事により全館休館・令和3年3月～一部休館。				
【特殊要因への対応】次年度以降を視野に入れ、文化芸術公演が少ない地域、学校を中心に前出公演や学校へのアウトリーチを通常よりも多く実施し、県民が身近な場所で文化芸術に触れる機会を創出し、地域・団体との連携の拡充を図る。				
【事業実施におけるその他の影響】新型コロナウイルス感染拡大（公演、人材養成、普及啓発事業すべてに影響）。				
①公演事業	中止	延期	WEB開催へ変更	出演者変更、座席数半減等により実施
計画8事業	2事業	2事業	1事業	3事業（県内5会場で実施）
新型コロナウイルス感染拡大による中止・変更が相次いだ。実施した事業（ビッグ・バンド・ジャズ・フェスティバル、上野耕平×三浦一馬×山中惇史トリオ、にっぽんこども劇場）は、グランシップの他、県内4カ所の市町文化ホール等（駿東郡長泉町、掛川市、菊川市、御殿場市）で開催し、身近な場所で文化芸術に触れる機会を創出した。				
②人材養成事業	静岡県公立ホール連携支援研修事業／計画：6月～3月の10回の研修及びトライアル公演			
当初10回予定した研修は新型コロナウイルス感染拡大を受け、WEB活用の上、8回とした。研修生によるトライアル公演は、当財団の研修参加職員のみに変更後、菊川市文化会館アエルと共同で進めることができた。				
③普及啓発事業	一部中止（内容変更など含む）		座席数半減等により実施	
計画6事業	3事業		3事業	
公演を伴う事業、アウトリーチ事業いずれも新型コロナウイルス感染拡大を受け変更を余儀なくされ当初計画通りには事業を進められなかったが、実施事業のアンケートでは、高い満足度を得ることができた。				
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。				
・地域と連携して、子どものうちから広く県民が文化芸術に触れる機会を作り出す様々な取り組みを展開し、いずれの事業も文化的、社会的、経済的に意義のあるものとなっている。				
【公演・普及啓発事業】				
・中止事業もあったが、当初の計画通り、積極的に県内各地の会館・学校に出向き、コロナ禍の中、子どもを中心に多くの県民の文化芸術に触れ、楽しむ機会を作り出し、グランシップと地域との連携を促進した。				
・県内各地に出向いた公演事業は、来場者の満足度も高く、集客（座席設定に制限があったが）もあり、今後の共催館の単独開催に向けた経験を積むために、次年度以降の継続開催を要望されている。				
・普及啓発事業のうち、小中・特別支援学校に出向くだけでなく、県内大学の教員と連携して、大学生を対象とした文楽、講談のレクチャーも実施している。				
【人材養成事業】				
・少人数で若手中心の研修を展開しているが、グランシップ前出公演の開催などにつながっている。				

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

① 公演事業

	目 標	指 標
ア	県民のニーズに合わせた舞台技術を提供する	公演満足度 90%以上、参加意欲度 90%以上
イ	公演事業を企画事業全体を支える収入源とする	支出に対して収入の占める割合※努力収入率 45.3%以上

実施した事業の実績

(%)

事 業 名	ア 公演満足度	ア 参加意欲度	イ 努力収入率
ビッグ・バンド・ジャズ・フェスティバル	96.0	98.0	0.0
上野耕平×三浦一馬×山中惇史トリオ	98.9	100.0	39.3
にっぽんこども劇場	98.8	96.3	9.5
平均（イは、中止・変更事業の実績含む）	98.4	98.6	6.6

目標に対する指標のうち、アは達成できたが、イは新型コロナウイルス感染拡大を受け公演の中止・延期・実施事業における座席数の半減等があり達成できなかった。令和2年度は県民に継続して文化芸術を提供することに重点を置いたが、公演事業が企画事業全体を支える収入源となるよう今後も収入確保に向けて努める。

② 人材養成事業

目 標	実施事業
県内公立文化施設職員が連携事業のあり方の研究やトライアル事業を実践形式で学び、各参加職員の企画制作能力の向上を図り、研究の成果を地域の文化振興に活かす	静岡県公立ホール連携支援事業

トライアル公演の共同開催は実現しなかったが、コロナ禍における公立ホールの在り方をテーマとした8回の講義はディスカッションと具体例を交えた研修で、企画業務に携わる公立文化施設職員に必要な知識やノウハウが習得できるものだった。今後研修終了の翌年度に実施する同事業で研修の効果を図るためのフォローアップセミナーを開催し、研修で学んだことをフィードバックする機会を作っていく予定である。

③ 普及啓発事業

	目 標	指 標
ア	子どもや若い世代に対して文化芸術鑑賞の機会を増やす	公演を伴う事業における子ども・学生の入場者 3,300人以上
イ	文化芸術を地域の学校に届ける	アウトリーチ事業における教員、児童・生徒の満足度 95%以上

実施した事業の実績

	目 標/事 業 名	ア 子ども・学生(人)	イ 事業満足度 (%)
ア	グランシップ出前公演 クラシック普及事業	18	—
	中学生のためのオーケストラ	4	—
	0歳から聴こう！ふれあいコンサート	60	—
イ	グランシップ子どもアート体験！学校プログラム	—	97.8
	グランシップ伝統芸能普及プログラム	—	99.1

目標アの対象事業のうち、「中学生のためのオーケストラ」では例年 2,000 人以上の中学生が参加する中学生対象公演が中止になり、目標を達成できなかった。目標イの対象事業は、予定した 24 本のうち 10 本が中止になったが、実施したプログラムでの満足度（内容に対する評価「とてもよい・よい・普通・よくない・あまりよくない」で「とてもよい・よい」が占める割合）の平均が 98.4%となり、目標を達成することができた。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

① 事業期間

新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止となった事業を除き、内容が変更となった事業については変更への対応を速やかに行い、事業を進めることができた。

② 事業費

(収入支出金額単位：千円)

事業の状況	当初計画		実績	
	収入	支出	収入	支出
【公演事業】計画：8	34,203	104,135	3,822	32,824
中止：2 延期：2 変更：4				
【人材養成事業】計画：1				
変更：1				
【普及啓発事業】計画：6	34,203	104,135	3,822	32,824
変更：4 一部中止：2				

・中止、延期になった事業では、収入・支出の発生がなくなった事業と、支出についてキャンセル料、中止決定までの成果物への対価等の支払が発生した事業により、収入・支出いずれも減額となった。

・変更となった事業のうち、公演事業3「音楽の広場2020」はWEBでの動画配信を行い、収入・支出いずれも減額となった。

・変更となった事業のうち、公演事業4「ビッグバンド・ジャズ・フェスティバル」普及啓発事業3「中学生のためのオーケストラ」のうち、一般向け「名曲コンサート」は、出演者の変更によるチケット払戻を実施し、収入・支出いずれも減額となった。

・その他変更となった事業では、客席数の変更や開催プログラムの一部中止などにより以下の2事業を除き、収入・支出いずれも減額となった。

公演事業6「上野耕平×三浦一馬×山中惇史」出演予定者が2人から3人となったことによる出演料の増額変更。

普及啓発4「ふれあいコンサート」開催負担金を入場料収入×45%としていたところ、開催経費×45%となったことによる負担金収入の増額変更と、出演者が予定より増えたことによる出演料、旅費の増額変更。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

【活動拠点】

・当財団は、静岡県コンベンション・アーツセンター「グランシップ」を拠点に、県域エリアに県内各地の文化ホール、学校と連携して、積極的に文化芸術を届ける事業を展開している。主なものは次のとおり。

1 公演事業

◎グランシップ音楽の広場

- ・静岡県内外のアマチュア演奏者にプロ奏者のサポートを加えた約 300 人の「グランシップ音楽の広場オーケストラ」に合唱団約 300 人が加わり観客も含めて 3,000 人で創り上げる事業。
- ・コロナ感染症拡大のため、令和 2 年度企画は次年度へ延期。次年度につなげるための公演振り返りも兼ねた動画等の WEB 配信に取り組み、11 千人を超える人の閲覧があった。

◎NHK 交響楽団×野平一郎プロジェクトシリーズ

- ・平成 29 年から 3 年計画シリーズで、各時代の多様なクラシック音楽を時系列で紹介することを初めて試みるほか、各回で静岡にちなんだオリジナル楽曲を披露する事業。
- ・次年度へ延期。3 回目のオリジナル楽曲である委嘱曲は令和 2 年度中に完成。

◎にっぽんこども劇場

- ・日本の優れた伝統芸能である浪曲・寄席・能楽を子どもに分かりやすく、興味・関心をさらに深められる内容で、親子で伝統芸能を楽しむことができる事業。
- ・令和 3 年 9 月に御殿場市民会館で開催予定の「能楽入門公演」に向けて、御殿場市内で子どもが継続して伝統芸能に触れる機会創出のための能楽の学校プログラム(令和元年度から 3 か年計画)を実施している。併せて令和 2 年度には、同会館で「能楽わんだーらんど」として開催した。

2 人材養成事業

◎静岡県公立ホール連携支援研修事業

- ・県立文化施設の役割として「県内の公立文化施設の機能向上」や「市町の公立文化施設のネットワークづくり」を目的として、前身事業も含めて、平成 22 年度から実施している事業。
- ・少人数でじっくり取り組む・若手（20 代～30 代）を中心に企画事業に携わる職員を対象としている。
- ・研修で学んだことを各文化施設の主催事業の取り組みに活かすという点を意識しており、参加者が抱える課題・ニーズに合った、実践に即した研修内容となっている。

3 普及啓発事業

◎グランシップ子どもアート体験！学校プログラム・グランシップ伝統芸能普及プログラム

- ・子どものうちから優れた文化芸術に触れる機会の創出ため、学校の規模の大小に関わらず、全県的な展開をしている事業。令和 2 年度は、県西部 2 校、県東部 5 校、静岡市内山間地域等 4 校、11 校の小中・特別支援学校で実施した。開催地の市町教育委員会、文化施設から、この事業を参考にと 5 人の見学があった。
- ・「狂言ワークショップ」は実際に一部の小学 6 年の国語の授業で扱われる「狂言」について能楽師（狂言方）が小学校へ赴き、教科書を用いて授業・実演・体験を行うことにより、伝統芸能に触れるだけでなく、学校の授業の理解につながる事業となっている。
- ・伝統芸能普及プログラムでは、小学校等へのアウトリーチの同日の夜、大学生を対象とした文楽レクチャー、講談レクチャーを実施した。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

公演事業、人材養成事業、普及啓発事業いずれにおいても地域の文化芸術の発展につながる事業を行っている。

1 公演事業

◎グランシップ音楽の広場

- ・令和2年度はWEB企画に変更になったが、2008年より毎年開催しており、静岡県内外のアマチュア演奏者250人～300人と、合唱団約300人が参加している。

◎グランシップビッグバンド・ジャズ・フェスティバル

- ・県内で活動するアマチュアバンドの参加を募り2009年より毎年開催している。どちらの事業も音楽活動を行う県民に演奏を披露する場を提供することで、静岡県の音楽文化を支える人口の維持に貢献している。

◎静岡県文化プログラムふじのくに伝統芸能フェスティバル

- ・令和2年5月に富士宮市での開催ができなくなり、7月にグランシップ中ホールでの代替公演を企画したところ代替公演も中止となった。
- ・準備の整った会場を活かして、公演運営・進行の新人職員研修も兼ねて出演予定だった高校の和太鼓部の実演に取り組み、次年度へつなげることができた。これはコロナウィルス感染拡大により活動が制限されていた高校生にとっても学生生活の最後の公演として一つの思い出となり、厳しい環境の中で地域の音楽活動が継続することの一助となった。

2 人材養成事業

◎静岡県公立ホール連携支援研修事業

- ・県内の公立文化施設との連携と企画事業に携わる職員の資質向上を目的に、半年以上の期間にわたり、テーマに基づいた8回～10回のカリキュラムで構成される研修事業である。
- ・実践に即した研修内容と、長期間・少人数（10名程度）での研修実施による研修生の交流促進により、県内公立文化施設の企画運営力を底上げする狙いがある。

3 普及啓発事業

◎にっぽんこども劇場

- ・「にっぽんこども劇場～能楽わんだーらんど～」は、演目の解説にイラストを採用し親子で楽しみながら能楽を体験する内容となった。

◎能楽入門公演

- ・能楽の魅力や演目の見どころを実演を交えて分かりやすく解説した。

◎伝統芸能普及プログラム

- ・県内の小学校で行った伝統芸能普及プログラムの狂言ワークショップでは6年生の教科書で扱う内容を題材に実演・体験を行い、伝統芸能をより身近に感じられる仕組みを事業に取り入れ、伝統芸能への興味・関心を持つきっかけ作りを担った。

以上のように、当財団は伝統芸能の普及に力を入れている。これは国際社会で必要な教養を身につけると同時に豊かな感性を育む環境づくりにつながり、伝統芸能へ興味を持つことをきっかけとして文化芸術全般へ目を向けることの発端になると考えている。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

【事業の計画】

- ・財団の基本方針に則った事業であるかという内容の確認に加えて、収入率や経費の妥当性を精査し、実施事業を決定している。
- ・企画制作部門においては、事業運営に必要な高度な専門知識と創造性を担保すると同時に企画事業の芸術性、効率性、採算性が両立する運営体制とするため、エグゼクティブプロデューサー1人、音楽部門及び伝統芸能部門のディレクター各1人を配置している。

【人事戦略】

- ・財団全体の人事戦略として、職員のモチベーション低下を防ぎ、意欲的に業務に取り組む環境づくりを進めるため、平成27年度より勤務成績優秀者に対して自ら計画、希望する外部研修への参加費用を一定額負担する特別研修制度を開始。
- ・指定管理者制度により採用時の雇用形態を有期契約職員としているが、平成28年度からは契約職員の内部登用制度を開始した。
- ・女性職員が大半を占めているため、育児休業制度の利用しやすい環境づくりに努めている。令和2年度の利用状況は次のとおりである。
育児休業3人、短時間勤務1人、遅出早出勤務1人
- ・育児や介護で一旦退職した職員が再び経験を活かし、更に能力を発揮するための復帰制度を創設し、令和2年度には1人を再雇用した。

【事業の実施における職員の育成】

- ・基本的にOJTにより担当職員の育成を行っている。
- ・複数人で同一のジャンルを担当し、経験者から新人に伝える体制を取り、事業実施に必要なノウハウが継承されるようにしている。

【事業実施後の取り組み】

- ・公演終了時に行っている来場者アンケートの内容を共有し、課内会議における担当者の報告に基づいて良かった点、改善が必要な点について自己分析を行っている。
- ・モニター制度を実施しており、年度開始前に募集・委嘱した10人程度のモニターに年間通して公演事業等の鑑賞を依頼し、年に4回開催するモニター会議において意見を聴取している。
- ・年に1回指定管理受託施設の設置者が行う外部評価委員会による評価を受けている。これらで得た意見等を集約し次期の事業計画へ反映させ、更に質の高い、県民に求められる事業の実施へとつなげている。

【その他の取り組み】 チケットの販売促進のため、以下の内容で友の会事業を実施している。

- ・個人会員：年会費無料
チケット優先予約（一般発売の1週間前）・チケット購入額の5%のポイント付与等
会員数 11,680人(令和3年3月31日現在)
- ・法人会員：特別会員年会費20万円・一般会員年会費20万円
グランシップ企画事業への招待・法人会員の社員等チケット10%割引・公演情報の無料提供等
法人特別会員4社、法人一般会員18社(令和3年3月31日現在)